



東京師範大學編

士教
育方
案

明治
44.8.3

東京 忠誠堂發行

特 66
425

下士教育方案目次

緒言	一
第一章 精神教育	四
第一節 精神ノ修養	五
第二節 軍隊ト青年	七
第三節 感化力	九
第四節 教育ト公平	十二
第五節 服従心ノ養成	十四
第六節 天職ヲ悟ラシムヘシ	十七

第二章 一般教育……………十九

 第一節 內務班長……………十九

 第二節 各個教練ノ助教……………二十九

 第三節 部隊教練ノ分隊長……………三十四

 第四節 陣中勤務……………三十七

 第五節 體操、劍術ノ助教……………四十六

 第六節 射擊教育ノ助教……………五十二

第三章 特別教育……………五十五

 第一節 實兵指揮……………五十五

 第二節 現地講話……………五十九

 第三節 圖上戰術……………六十六

 第四節 講堂教育……………六十七

 第五節 體操、劍術、射擊……………七十五

 第六節 計畫ノ想定……………七十七

結 語……………八十七

下士教育方案

緒言

抑々軍隊ノ精強ハ善良ナル下士ニ俟ツコト多キハ萬人ノ首肯スル所ナリ實ニ彼等ハ兵卒ノ直接ノ指導者ニシテ其一舉一動ハ悉ク兵卒ノ模倣スル所タルヲ以テ下士ノ良否ノ中隊成績ニ影響スルヤ大分アリ、否、實ニ國軍ノ振否ニ關スルモノトス

然ルニ現今ノ狀況ハ下士ノ精神、學術共ニ此希望スル點ヲ距ルコト遠シトノ不滿ノ聲アルヤ久シ即チ下士教育ノ不振ハ其絶頂

ニ達セリトモ稱スルニ至レリ

元來教育ノ事タルヤ其項目ヲ嚴密ニ分類シ其量ヲ細密ニ分配シ
逐次ニ之ヲ機械的ニ實施スルノミニテ所要ノ成績ヲ舉ケ得ルモ
ノニアラス主トシテ精神ノ涵養、中隊長ノ人格陶冶力ニ關係ス
ルモノトス

然レトモ全然精神的要求ノミニ委スルハ是亦所要ノ成績ヲ舉ク
ル能ハサルモノトス要スルニ極端ニ趨ルコトナク細密ナル計畫
●周密ナル指導ト精神的要求トノ三者相俟チテ始メテ所望スル
下士ヲ養成シ得ルモノナリ故ニ計畫ノ周密亦必要ナリ

抑モ下士教育ハ特種ノモノニアラス又世人ノ云々スル如ク困難

ナルモノニアラサルナリ其主トスル所ハ中隊一般教育ト共ニ行
フ教育ナリ即チ兵卒一般教育ノ際下士ヲモ教育スヘキモノナル
コトカ中隊長及將校ノ念頭ニ在レハ其レニテ可ナリ世人或ハ誤
リテ一般教育ヲ以テ全然兵卒ノ教育ノミニ偏シ幹部教育ヲ忽セ
ニスルモノアリ根本ヲ誤ル之ヨリ甚シキハナカルヘシ
然ラハ中隊一般教育ト共ニ行フ教育ノミニテ下士教育ハ充分ナ
リヤ、否、必ス之ニ附隨スヘキ特別教育ヲ施ササルヘカラス
抑モ中隊下士ノ學術科程度ハ一定ナラス新任伍長ノ如ク下士候
補者トシテ多少ノ特別教育ハ受ケタルモ些少ノ經驗ナキモノト
曹長及古參軍曹ノ如ク任官後教育經驗相平行セルモノトアリ

斯ノ如キ學術科程度不定ノ者ニ同一科目ヲ同一要領ニ依リ教育スルハ其効果少キモノトス

故ニ曹長及古參軍曹ニハ教育順次教令ニ示ス如ク小隊長ニ必要ナル學術科即チ稍高尚ナル教育ヲ施シ新任伍長及中參軍曹ニハ分隊長トシテノ學術科ヲ習得セシムルヲ要ス

之ヲ要スルニ下士ノ良否ハ中隊ノ成績ニ直接ニ影響スルモノナルヲ以テ中隊長ハ極力萬難ヲ排シテ完全ナル計畫ト懇切ナル指導トヲ以テ理想ノ下士ヲ教育セサルヘカラサルナリ

第一章 精神教育

第一節 精神ノ修養

精神教育ハ下士教育ノ骨幹ナリ中隊長ノ全力ヲ傾注スヘキハ即チ是ナリ下士ノ精神ト謂ヒ兵卒ノ精神ト謂ヒ其間異ル所ナシト雖要ハ中隊長ノ意圖ヲ一モ二モナク實施セシムルニ在リ

社會ノ進ムニ從ヒ此精神ハ益々其必要ヲ感セスンハアラス現代ニ於ケル一般ノ風潮ハ表面上ノ服從ヲ爲シ絶對ノ服從心ナキコト是ナリ絶對ノ服從心ナキ者ハ陰陽ニ依リ其動作ヲ區別シ監督者ノ有無ニ依リ働ヲ異ニス其害獨リ教育ノ進捗ヲ害スルノミナラス延テハ兵卒奉公心ノ強弱ニ關係ス豈戒メサルヘケンヤ吾人ノ理想トスル所ハ一身ヲ犠牲ニシ中隊長ヲ保護シ忠實ニ働

ク下士ヲ得ルニ在リ中隊長ニ忠實ナルハ即チ 陛下ニ忠實ナル
所以ニシテ又職ニ忠實ナルモノナリ

此目的ヲ達スルニハ人格崇高ナル中隊長カ絶エス時機ヲ失セス
刺激誘導スルニ在リ

茲ニ於テカ中隊長ノ人格ノ崇高即チ精神ノ修養亦其必要ヲ感ス
ルヤ大ナリ

徳高ケレハ隨テ從フ是一定一變ノ原則ナリ抑モ人ノ徳タル求メ
テ得ヘキモノニアラスシテ生來具備セルモノナリト雖修養ニ依
リテ若干ノ進歩ハ敢テ難キニアラサルヘシ
是ニ依リ之ヲ觀レハ中隊長自ラモ日夜修養ヲ怠ラス益々其人格

ヲ崇高ナラシメ下士ヲシテ求メスシテ從ハシムルノ覺悟ヲ有セ
サルヘカラス

徳ト相俟テテ緊要ナルハ絶エス時機ヲ失セサル刺激誘導ナリ即
チ命令、諸規定ノ實施ノ監視ヲ綿密ニシテ寸毫モ假借セス其責
任ヲ問ヒ適切ナル指針ヲ與フレハ下士ヲシテ疎虞懈怠ヲ爲スノ
餘地ナカラシメ以テ其目的ヲ達スルヲ得ヘシ

第二節 軍隊ト青年

一國ノ盛衰ハ青年ノ志氣ニ在リ一國ノ未來ハ青年ノ思想ニ在リ
青年ノ墮落ハ國家ノ衰運ナリ青年ノ振興ハ國家ノ盛運ナリ即チ
青年志氣ノ緊張如何ニ依リ國家ノ未來ヲトスルニ足ルモノトス

而シテ青年ノ教育ハ軍隊ニ於テシ青年ノ志氣ハ軍隊ニ依リテ養成涵養セラレサルヘカラス換言スレハ軍隊教育ノ効果如何ハ直ニ青年ノ志氣ニ及ホシ青年ノ志氣ハ國家ノ盛衰ニ關ス軍隊教育ノ任タル重且大ナラスヤ

青年直接ノ教育者ハ何人ソ此重大ナル任務ヲ有スルハ下士ナリ下士カ青年教育ノ効果ヲ舉クルト否トハ國運ノ消長、國勢ノ盛衰ヲ定ムルモノト謂フモ過言ニアラサルヘシ

見ヨ下士ノ名譽ヲ

思ヘ下士ノ責任ヲ

即チ軍隊ニ於ケル軍紀ノ振張ハ實ニ下士ニ負フ所大ナリ將校暨

視ノ下ニ於ケルヨリモ下士監督ノ下即チ班内ニ於ケル動作或ハ各個教練ニ於テ兵卒ヲ涵養スヘキモノナレハ軍紀ヲシテ第二ノ天性タラシムルノ任ハ下士ニ在リ

茲ニ於テカ中隊長ハ此名譽ト此責任トヲ深ク彼等ノ胸底ニ刻マシメ併セテ平時奉公ノ面目之ニ過クルナキヲ知ラシムヘシ

第三節 感化力

操典ニ曰ク

「教官ノ率先躬行ハ兵卒ニ多大ノ感動ト影響トヲ與フルモノナリ」ト

然リ兵卒ハ先天的ニ教育者ノ一言一動ノ些微ニ至ルマテ模倣ス

ル性質ヲ有スルモノナリ恰モ兒女ノ父母ニ對スル以心傳心ノ如シ教育者ハ茲ニ注意シ活模範ヲ示ササルヘカラス模範ハ活ケル教科書ナリ模範ハ無言ノ鞭撻者ナリ一ノ活模範ハ百ノ說法ニ勝ル今日ノ下士ニシテ果シテ能ク活模範ヲ示シ得ル者アリヤ是疑ヒナキ能ハヌ己之ヲ行ハス又之ヲ行フ能ハスシテ之ヲ兵卒ニノミ責メンモ兵卒安ソ之ニ感動シ之ヲ信センヤ

内務書ニ曰ク

「上官ハ隊中ニ在ルト否トヲ論セス其言行總テ部下ノ儀表ヲラサルヘカラス」ト

故ニ下士ハ常ニ高尚ナル氣品ヲ有シ方正ナル品行ト端正ナル態

度、服裝トヲ以テ兵卒ニ對シ得ル如ク教育セサルヘカラス

左ニ日常業務中ノ細部分ニ就キ下士ニ要求スヘキ件ヲ示サン

一 學術科ノ爲ニ兵卒ヲ整列又ハ集合セシムルトキハ常ニ各兵卒ヨリモ先ンシテ出場スルコト

二 學術科解散ノトキハ常ニ兵卒ヨリ後レテ入舍スルコト

三 將校ノ行フ學科ニ陪席スルトキハ端正ナル姿勢ニテ最モ熱心ニ聽クヘシ

四 教練中ハ動作ヲ敏活ニシ快感ヲ覺エシムルコト

五 兵卒ノ前ニテ上官ノ批評ヲ爲ササルコト

六 兵卒ノ前ニテ上官ニ對シ反抗的ノ顔色口氣アルヘカラス言

- 語舉動自ラ敬意ヲ表シ決シテ我意ヲ張ラサルコト
- 七 教練中及練兵場往復途中ノ銃ノ擔方ニ注意スルコト
- 八 教練中多少ノ困難ニ遭遇スルモ兵卒ノ前ニテハ益々快活ナル顔容ト動作トヲ爲シ以テ志氣ヲ向上セシムルコト
- 九 破損セル被服及武器ヲ著用所持セサルコト
- 十 上官ヨリ命令ヲ承ルトキハ愉快ナル顔色ヲ爲スコト
- 十一 命令ニ對シ論議スヘカラサルコト
- 十二 兵卒ト勞苦ヲ共ニスヘキコト

第四節 教育ト公平

内務書ニ曰ク

「兵卒ニ接スルニハ常ニ懇切公平ヲ旨トシ而モ其身分ノ尊嚴ヲ保チ以テ兵卒ヲシテ己ニ信賴セシムルコト猶ホ幼兒ノ其慈母ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス」ト

公平ハ進歩ノ要訣ナリ不公平ハ不平ヲ來シ不平ハ教育ノ進歩ヲ害ス

顔面ノ異ル如ク兵卒ノ性情モ亦異レリ性情ノ異ルニ從ヒ多少ノ好キ嫌ヒヲ生ス是人情ノ弱點ナリ此弱點ハ人格ノ修養ニ依リ打破シ得ルモノトス

茲ニ於テカ品性ノ向上、人格ノ修養ノ必要ヲ感スルヤ切ナリ然ルニ現今ノ下士ノ性情ヲ察スルニ現代思潮ノ惡風ニ感染シ忌憚

ナク人情ノ弱點ヲ發揮セル者多シ即チ優勝者ハ之ヲ愛シ重シシ劣等者ハ之ヲ憎ミ輕ニス隨テ教育ニ幾分ノ不公平ヲ生スルハ修養ノ足ラサル下級幹部ニ於テ往々見聞スル所ナリ中隊長ノ著眼茲ニ存セサルヘカラス

第五節 服従心ノ養成

要務令ニ曰ク

「常ニ全軍ヲシテ必ス上長ニ服従シ其命ヲ恪守スルヲ以テ第一ノ天性タラシムヘシト」

内務書ニ曰ク

「服従ハ軍紀ヲ維持スルノ要道タリ上官ト部下トノ間ニ於テ

絶對ニ之ヲ勵行シ慣習遂ニ其性ヲ成スニ至ラシムルヲ要ス其他軍人一般ニ其階級及新古ノ順序ニ從ヒ服従ノ道ヲ守リ恭謙柔順以テ全軍ノ秩序ヲシテ整然タラシメサルヘカラスト

眞ニ然リ服従心ナキ軍隊ハ烏合ノ衆ニ等シカルヘク軍紀立所ニ去リテ三軍忽チ滅亡セン

又曰ク

「將校ト下士卒トヲ問ハス時ト所トヲ論セス上官ノ命令ニ服從シ法規ヲ恪守シ熱誠以テ軍務ニ努力ス之ヲ軍紀振作ノ實證トス」ト

然レトモ茲ニ注意スヘキハ修養ノ足ラサル下士ハ兵卒ニ過大ノ

要求ヲ爲シ或ハ爲シ能ハサルコトヲ命シ或ハ爲スヘカラサルコトヲ求ムルノ惡弊アリ徒ニ形式ニ拘泥シ兵卒ヲ責ムルカ如キ理ニ背キ道ニ外レタル事モ我意ヲ通サンカ爲威壓スル如キハ獨リ軍隊ノ蠱毒タルノミナラス國家ノ爲ニモ許シ難キ罪人ナリ然ラハ如何ニシテ之ヲ指導センヤ曰ク一言以テ之ニ答ヘン

崇高ナル人格ト至誠ナル躬行率先

即チ是ナリ百回ノ說法ヨリモ内務書ノ摘講ヨリモ第一ノ要訣ハ眼ヨリ注入スルニ在リ故ニ將校及中隊長ハ常ニ下士ニ對シ明晰ナル言語ト嚴正ナル姿勢ト威風凜凜トシテ犯スヘカラサル態度トヲ以テ接シ諸規定、諸法則ヲ嚴守シ以テ彼等ニ衷心ノ摸倣、衷

心ノ服從ヲ期セスシテ爲サシムルヲ要ス
内務書ニ曰ク

「服従心養成ノ最良ナル方法ハ上官先ツ自ラ諸法則ヲ遵奉シ禮儀ヲ正シクシ服従ノ道ヲ守リ以テ模範ヲ垂ルルニ在ルコトヲ忘ルヘカラス」ト

然リ眞ニ然リ萬事之ヲ以テ盡ク

第六節 天職ヲ悟ラシムヘシ

職業ニ貴賤ナシトハ眞ニ然リ

今更吾人ノ説明ヲ要セス然ラハ萬人皆其職ニ忠實ナラサルヘカラサルニ事實ハ之ニ反シ我ハ此職ニ適セス我ハ此職ヲ好マス甚

シキニ至リテハ此職ハ賤ナリトノ理由ノ下ニ不平滿々ト其日其日ヲ過ス者アリ誤レルノ甚シキモノト謂フヘシ隨テ彼等ハ其職ニ忠實ナラス熱心ナラス姑息的手段ヲ以テ一時ヲ糊塗シ以テ上官ヲ欺騙セントス若軍隊ニ斯ノ如キ者一人ニテモアランカ獨リ軍隊ノ蠱毒タルノミナラス國家ヲ誤ル之ヨリ甚シキハナシ
 向上的精神ハ必要ナリ人ニ向上心ナキトキハ熱心ヲ缺キ隨テ其効果揚ラサルモノトス然レトモ各々其分ニ應シ其職ニ甘ンヌルノ心亦ナカルヘカラス即チ自己ノ天職ヲ知り其職ニ忠實熱心ナル者は國家ノ求ムル所ノ人物ナリ自己ノ天職ヲ知ラス徒ニ高キヲ求ムルハ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルニ等シカルヘシ

下士ハ下士タルヘキ素質ヲ以テ生シタルモノナリ故ニ下士ヲ以テ己ノ天職ト爲シ忠實ニ其職ヲ盡シ熱心ニ働キ以テ國家ニ利スル所アラハ其レニテ満足セサルヘカラス滿ツルヲ知ラサルハ貪欲ノ人ナリ貪欲ハ損欲ナリトノ古言アリ至言ト謂フヘシ
 中隊長ハ時機ヲ得ル毎ニ下士ヲシテ其天職ヲ悟ラシムルヲ要ス

第二章 一般教育

第一節 内務班長

下士教育中最モ努力スヘキハ内務教育ナリ最モ困難ナルモ亦此教育ナリ而シテ此教育ノ要ハ如何ニシテ智識、技術ヲ授クヘキ

カニ在ラスシテ如何ニシテ人ヲ養成スルカニ在リ

抑モ中隊内務教育ノ計畫方針ヲ立案シ之カ説明ト實施ノ要求ヲ爲スハ固ヨリ中隊長ノ任ナリト雖指導訓誨シテ模範ヲ示シ之ニ倣ハシメ以テ絶エス實行ヲ監視監督スルハ全ク下士ノ任ナリトス故ニ中隊ニ於ケル訓育ノ實施ハ中隊長ニ依リ行ハルルヨリモ寧ロ常ニ起居ヲ共ニスル下士ニ依リテ涵養セラルルコト多キモノトス是下士ノ職責ノ重大ナル所ニシテ所謂下士ヲ以テ慈母ト爲ス素因ナルヘシ

中隊長ノ精勵星ヲ頂キテ出テ月ヲ戴キテ歸ルモ若下士エシテ其意圖ヲ誤ランカ決シテ中隊ノ成績ヲ良好ナラシムル能ハス故ニ

下士ヲシテ慈母タラシムル爲ニハ中隊長ハ努力奮勵セサルヘカラス

○班内ノ和睦

内務書ニ曰ク

「班長ハ古參兵ト新參兵トノ間柄ニ注意シ相互友悌ノ道ヲ盡シ和睦一致軍隊生活ヲ樂ムノ心ヲ盛ナラシムヘシト

軍隊生活ヲ樂ムノ心ヲ盛ナラシムルコトヲ要求セラレタリ然レトモ熟々現今兵卒ノ心情ヲ察スルニ軍隊生活ヲ樂ムノ心乏シキ者多キカ如シ一步進ンテ探求セハ却テ之ヲ嫌フ者ナキニシモアラサルヘシ是國家ノ爲寛假スヘカラサル事ナリトス故ニ軍隊志

氣ノ骨幹タル將校及中隊長ハ其原因ヲ探求シ以テ其禍根ヲ絶滅スルコトニ全力ヲ傾注セサルヘカラス
抑モ兵卒ノ軍隊生活ヲ樂ムノ風乏シキハ其原因軍隊其物ヲ嫌フニアラス又教練ノ困苦ヲ嫌フニアラス唯班内ニ於ケル古參兵ノ事理ヲ辨セス人權ヲ無視シ弱者ヲ酷責スルニ依リテ生ス
兵卒ハ 陛下ノ赤子ナリ社會ノ一員ナリ之ニ對シ人情ヲ解セス人權ヲ重ンセサル蠻的行爲ヲ爲スハ即チ 陛下ニ對シテハ不忠ニシテ國民ニ對シテハ不義ナリ古參兵ヲシテ斯ノ如キ動作ヲ爲サシムルハ前年度ノ新兵教育者ノ罪ナリト雖主トシテ班長ノ監視監督ノ粗漏及班長ノ修養足ラスシテ班内ノ儀表タルヘキ素質

ニ缺クル所アルニ起因セルモノナリ

班長ノ責任斯ノ如ク大ナリ此教育者タル中隊長ノ責亦重シト謂フヘシ

内務書ニ曰ク

「中隊長ハ中隊家庭ノ一致和親ヲ保ツコトニ就テハ全責任ヲ有ス之カ爲斷ニス幹部ト兵卒ノ關係竝同僚間ノ交情ニ注意シ言行常ニ溫和誠實ヲ旨トシ決シテ冷酷粗暴ノ振舞ナカラシメ就中古參兵ノ新參兵ニ對スル動作ニ配慮シ以テ常ニ隊中ノ圓滿和熟ヲ期スヘシ」ト

班内ノ一致和睦ニ對スル内務書ノ要求斯ノ如シ之ヲ以テモ下士

ハ中隊長ノ意圖ヲ奉シ中隊長ノ手足トナリテ熱心其職ニ斃ルルノ覺悟ヲ有セサルヘカラサルヲ知ル

○班長ノ言動

内務書ニ曰ク

「下士ハ常ニ兵卒ト起居ヲ共ニスルモノナルカ故ニ其言動ノ兵卒ニ感染スルコト最モ甚シ」ト

故ニ班長ハ班内ニ於ケル雜談ニ注意シ苟モ不平ノ言、活氣ニ乏シキ言、淫靡ノ言、賤劣ナル言、不愉快ナル言ヲ弄スヘカラス必スヤ快活無邪氣ニシテ快刀亂麻ヲ斷ツノ言ナルヲ要ス例ハ倫理上ノ論、歴史譚、武勇傳等ヲ選フヘシ決シテ政事ニ關スル

論、他人ヲ誹謗スル言、男女ノ關係等ニ就キ談論スヘカラス是兵卒ニ對スル感化力極メテ大ナレハナリ

中隊長ハ如何ニシテ下士ノ班内ニ於ケル言動ヲ知ルヘキヤ他ナシ射撃場、練兵場若ハ班内檢査ノ際下士ノ言動ヲ詳細ニ注意セハ當ラスト雖遠カラサル觀察ヲ爲シ得ヘシ凡ソ人ノ性質即チ其弱點ハ些細ナル言動ニ於テ現ハルルモノトス

○兵器ノ尊重

内務書ニ曰ク

「班長ハ班員ヲシテ武士ノ嗜トシテ兵器ヲ尊重シ之ヲ大切ニ取扱ヒ朝夕愛撫シテ心膽ヲ練リ競フテ其技ニ長セントスルノ

心ヲ盛ナラシムヘシト

古武士ノ腰間ニ佩フル日本刀ニシテ一點ノ汚點タニアランカ武士ノ恥辱之ニ過キタルハナシ場合ニ依リテハ切腹セシモノナリ即チ刀ヲ以テ尊嚴無量ナル武士道ノ化身ト崇メタリ今日ノ武士ノ魂ハ即チ銃ナリ劍ナリ即チ今日ノ大和魂ノ化身ト云フヘキハ銃及劍ナリ

兵卒ノ銃劍ニ對スル尊重心ハ普通薄弱ナリ何トナレハ生來二十年ノ久シキ間之ニ對スル思慮ナク感念ナシ隨テ武器ヲ以テ一般ノ道具視スルノ嫌ナキ能ハス下士ノ努力ヲ要スルハ蓋シ此點ニ在ルヘシ

中隊長ハ常ニ部下班長カ銃器尊重ニ關シ兵卒カ如何ナル程度ニ注意シ努力シアルカヲ念頭ニ置キ居ルヤ否ヤヲ監督スルヲ要ス以下二三ノ場合ヲ舉ケ一考ヲ煩ハサン

- 一 班内検査ノ際各班ノ成績ニ依リ班長ノ武器ニ對スル感念ノ厚薄ヲ知ル
- 二 破損修理ノ多寡ヲ参照シ以テ班長ノ之ニ對スル感念ヲ知ル
- 三 教練中殊ニ射撃場ニ於ケル兵卒ノ銃ノ取扱ニ依リ班長ノ教育ノ粗密ヲ知ル

右ハ唯結果ニ就キ論セシモ下士ヲシテ常ニ良結果ヲ來サシムル

如キ根本的指導ハ必ス實施スヘキモノトス

○班内ノ整頓

内務書ニ曰ク

「班長ハ舍内ノ保存掃除及諸物品ノ裝置整頓ニ注意スヘシ」

班内ノ掃除整頓ハ獨リ衛生上ヨリノ要求ニアラス精神教育ノ資ニモ供センカ爲ナリ規則正シキ整頓ト確實ナル掃除實行トハ共ニ兵卒ニ良習慣ヲ與ヘ自然ニ命令ニハ絶對ニ服従スヘキ感念或ハ活氣アル起居或ハ協同動作等軍紀ノ涵養ニ益スルコト多シ事小ナリト雖賤ムヘカラス輕シスヘカラス

而シテ中隊長ハ班内巡視ノ際班内裝置ノ良否、兵卒支給品ノ整頓ノ正不正、孰レニテモ直接兵卒ヲ責ムルコトナク班長ニ注意シ班長ノ周密ナル監督心ノ養成ニ資スヘシ

第二節 各個教練ノ助教

操典ニ曰ク

「各個教練ノ目的ハ兵卒ヲ訓練シテ諸制式ニ熟セシムルト同時ニ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ鍊リ部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルニ在リ」ト

直接教育ノ衝ニ當ル助教ハ能ク此目的ヲ玩味シ能ク其真意ヲ了解シ以テ操典ノ制式、諸規則ヲ勵行シ其怠慢誤謬ハ毫モ假借ス

ルコトナク十分嚴格ニ矯正スルコト必要ナリ

○修正眼ノ養成

- 一 過失發見ノ迅速ニシテ適確ナルコト
- 二 過失原因ノ探求
- 三 原因ノ矯正法
- 四 適切ナル補助運動ノ實施

以上ノ點ニ注意シテ指導セハ缺點ノ探求及修正共ニ確實且迅速ニシテ時間ニ於テ利スル所多カラシテ其順序ハ最モ必要ナル點ヨリ修正スヘキモノトス

右ノ理論ハ孰レノ下士ト雖必ス了得シアルヘシ唯之ヲ實施シ得

ルヤ否ヤカ問題ナリ故ニ中隊長ハ彼等ノ修正ニ些少ノ誤謬アリト雖之ヲ發見セハ直ニ矯正シ理論ノ如ク實施セシムルヲ慣習ト爲スヘシ

○助教ノ姿勢及言語

兵卒ハ鏡ノ如ク助教ノ動作ハ一點ノ曇リナク其儘現影スルモノトス其性質ハ勿論甚シキニ至リテハ手癖、足癖ニ至ルマテ漏ルルコトナシ

内務書ニ曰ク

「下士ノ言動ノ兵卒ニ感染スルコト最モ甚シ」ト

即チ是ナリ故ニ姿勢ハ極メテ嚴格、動作ハ極メテ活潑、言語ハ

極メテ簡明ナルヲ要ス

中隊長ハ左ノ點ニ注意シ適當ニ指導スヘシ

一 號令ヲ掛クルトキ及停止間ノ教練ノ修正時ニ於ケル姿勢

ハ模範的不動ノ姿勢タルコト

二 行進間ニ於ケル銃ノ保持法ハ理想的擔銃ナルコト

三 自己ノ位置變換及集合、解散ニハ必ス活氣アル駢足ナル

コト

四 教官及助手ニ對シテハ其階級ニ應シ嚴肅ナル姿勢及言語

ナルコト殊ニ敬禮法ニ注意スルコト

○教育ノ順序

操典ニ曰ク

「教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘ

カラス」ト

然リ逐次的ナラサルヘカラス漸進的ナラサルヘカラス階級的ナ

ラサルヘカラス

助教ノ通弊ハ一時ニ多クヲ求メ或ハ經過ヲ急キ或ハ其順序ヲ誤

ルカ如キ粗漏ノ教育ヲ施シ若兵卒ノ才能之ニ伴ハサル者アラン

カ徒ニ進歩ノ遅キヲ責ムルニ在リ是中隊長ノ監視ノ嚴密ヲ要ス

ル所以ナリ故ニ次ノ件ニ關シ適切ナル指導ヲ要ス

一 當日教練ノ要求程度及著眼點ヲ懇切ニ示スコト

二 教官ノ示セル軌道外ニ逸セサル如ク監視ヲ嚴ニスルコト

第三節 部隊教練ノ分隊長

分隊長ノ職務ハ新任伍長ニハ其要領ヲ知ラシムルヲ以テ目的トシ中參軍曹ニハ自信ヲ以テ指揮シ得ルノミナラス諸狀況ニ應スル動作ヲ確實ニ實施シ得ル如ク熟達セシムヘシ
抑モ分隊長ハ兵卒ノ活模範タルヘキモノナレハ其動作勇壯活潑ナラサルヘカラス殊ニ戰鬪間ニ於テ然リトス彈丸ハ霰ノ如ク飛散シ砲聲天ニ轟キ耳爲ニ聾シ四面硝煙ヲ以テ包圍セララルノ時兵卒中周章狼狽忘神ノ懦夫ナキニシモアラス此時ニ於ケル分隊長ノ勇壯活潑ナル動作ハ如何、必スヤ忘神ノ懦夫ヲシテ大功ヲ

博スルノ擧ニ出テシムルノ神力ヲ有セシムルモノトス分隊長ノ任重且大ナラスヤ

戰況ノ進ムニ從ヒ散兵線ハ愈々混亂シ多クノ將校ヲ失ヒ戰鬪ノ指揮確實ナラサル時ニ方リテハ分隊長ハ奮然萎靡セル小隊ヲ提ケテ敵壘ニ猛進スルノ慨ナカルヘカラス

以上ハ精神ニ關スル指導要領ナリ左ニ具體的研究ヲ爲サン

研究項目

○戰鬪間分隊長

一 所要ニ應シ中隊長若ハ小隊長ノ號令ノ復令

戰鬪酣ニシテ喧噪ナルトキ或ハ地形上指揮官ト離レタルトキ

ニ生スル狀況ナルヲ以テ演習ニ於テハ空包ヲ使用シ或ハ斯ノ如キ地形ヲ選定スルヲ要ス

二 散兵線ノ誘導

地物ヲ利用シ十分射撃ノ効力ヲ發揚シ且遮蔽シ得ル如キ地點ニ誘置スルコト緊要ナリ然レトモ多クノ場合比隣分隊ノ顧慮ヨリ誘導範圍ハ僅少ナルモノトス

三 分隊長ノ銃器使用ノ時機

此時機ハ敵ノ狀態若ハ我カ散兵線ノ狀態ニ依リ生スルモノトス其目的ハ分隊ノ指揮ヲ振起セシムル必要アルカ或ハ銃數ノ多キヲ欲スル時ナリ

分隊長ノ職ハ多端ナリ故ニ中隊教練以上ノ部隊教練ニ於ケル要求ハ右ノ數件ニ止メ部下兵卒ノ監視、分隊ノ射撃指揮、目標判斷、射彈觀測等ニ關スル指導ハ實兵指揮ノ項ニ於テ説明スル要領ニ從ヒ研究スルヲ適當ナリトス

第四節 陣中勤務

中隊一般教育ト共ニ行フ陣中勤務ニ於テハ直接教育者トシテノ技能ヲ養成スルト共ニ指揮者トシテノ指揮統御力ヲ修得セシムルモノトス

特ニ注意スヘキ事ハ一般教育ノ目的カ兵卒ノ教育ヲ主眼トスルコト是ナリ教官ノ注意一言ノ之ニ及フナカランカ下士ハ實兵指

揮ト誤リ主客ヲ顛倒スルニ至ルヘシ

左ニ各科目ニ就キ指導要領ノ範例ヲ示サン

研究項目

○前方ニ出サレタル斥候長

一 出發ニ際シ斥候長トシテ必ス知リ置クヘキ件

目的地、搜索又ハ偵察スヘキモノ、目的地ヘノ徑路、斥候長ノ使用シ得ル時間

此研究ハ斥候長ノ復唱ニ依リ其了解ノ程度ヲ知リ得ルモノトス尙前科目ニ就キ試問スルハ教育者ノ注意スヘキ事ナリ往々下令者ノ文句ノ記憶ニ努メ其意味ヲ顧ミサルモノアリ隨テ想

定ハ記憶シアルモ任務、使用時間等ニ就キ呆然タルモノアリ

二 出發時ニ於ケル斥候長ノ部下ニ示ス件

目的地點、搜索又ハ偵察スヘキモノ、斥候互ニ離散セシトキノ處置、諸記號ノ規定

教官ハ一兵卒ニ對シ右科目ニ就キ試問スヘシ然ラハ斥候長ノ示シ方ノ確否ヲ知ルコトヲ得

三 斥候兵ノ使用法

敵發見前ニ於テハ各地區地物ニ依リ其搜索法ヲ異ニス
敵發見後ニ於テハ敵狀ヲ主トシテ斥候兵ヲ使用ス

四 後方ニ對スル顧慮

斥候長ハ迅速ナル動作ヲ爲サンカ爲動モスレハ前方ニノミ注意シ後方ニ全ク意ヲ拂ハサルモノアリ殊ニ敵ト遭遇後追撃等ニ於テ然リトス抑モ斥候ハ軍ノ耳目ナルノミナラス後方部隊ノ先拂者ノ如キ任務ヲ有スルモノナレハ慎重ニ動作シ前方ト同等ノ注意ヲ後方ニ拂ハサルヘカラス

實施要領||後方部隊ヲ旗ヲ以テ示シ其假設隊ヲシテ時々行進シ停止シ或ハ轉進セシメ後方ニ對スル注意ヲ喚起セシムヘシ

五 報告ノ迅速

任務ハ行進路ノ敵情、地形ニ注意シ後方ヨリ行進スル軍隊ヲシテ不意ニ敵ニ遭遇セシメサルニ在リ故ニ成ルヘク速ニ敵ヲ

發見スルコトヲ努メシメ又道路上ノ破損セシ箇所或ハ橋梁破壊ノ目的ヲ以テセル敵ノ準備ヲ速ニ發見シ後方ニ報告セシムルヲ要ス

實施要領||假設敵ノ斥候又ハ部隊ヲ現ハシテ或ハ橋梁等ヲ破壊シ若ハ其準備ヲ橋梁適宜ノ位置ニ豫メ揭示シ以テ搜索ニ關スル著眼點ノ養成ニ資スヘシ

六 側斥候トノ連絡

側斥候トノ連絡ノ確否ハ任務達成ニ最 必要ナル事ナリ連絡ニハ直接、間接ノ二法アリ直接トハ斥候兵ヲ以テスルモノニシテ之カ爲兵卒ヲ過度ニ疲勞セシムルヲ以テ利尠シトス故ニ

通常間接ノ連絡法即チ自己ノ眼ヲ以テ連絡スルヲ主トス

實施要領—實員斥候若ハ假設旗ヲ以テ側斥候ノ動作ヲ現ハシ

テ連絡セシム

○下士哨長及步哨係下士

中隊一般教育ノ科目ハ小哨配布トス此時機ヲ利用シ下士哨長ハ
中參軍曹ヲシテ、步哨係下士ハ伍長ヲシテ研究セシム

一 受命後ノ動作

任務ヲ復唱シ兵卒ニ簡單ナル説明ヲ爲ス諸當番卒、其他勤務
員、病人ヲ殘置シ目的地ニ向フ目的地へノ前進要領ハ全ク斥
候ノ行進法ト同一ナリ

二 哨所ニ到着後ノ動作

步哨ノ位置ハ晝夜ニ依リ異ルモ通常敵ニ通スル道路ノ附近ニ
テ展望自在ニシテ身體ノ蔭蔽ヲ努ムヘシ

地物ヲ利用シテ步哨ヲ立ツレハ假守則ヲ授ク此守則ハ敵方、
特ニ監視スヘキ地點、哨兵ノ姿勢ノ三ニ限ルモノトス往々細
部ニ涉リ示スモノアリ是小哨長ノ與フル特別守則ト混同シ兵
卒ヲシテ了解ヲ困難ナラシムルノ虞アルヲ以テ注意スヘシ

三 交代兵ノ處置

交代兵ノ位置ハ哨所ノ附近ニシテ蔭蔽シアルヲ要ス成ルヘク
哨所ニ近接セルヲ可トスレトモ地形之ヲ許ササルトキハ三十

米内外ハ隔ツルコトヲ得

交代兵ハ又銃スルコトナシ爲シ得レハ急造銃架ヲ設クルカ樹木ニ二挺ツツ立テ掛クルモ可ナリ

小哨長來リ特別守則ヲ與フルトキハ交代兵ヲ步哨ノ近傍ニ掩蔽シテ位置セシメ共ニ之ヲ聽聞セシム此記憶十分ナルトキハ交代兵ノ位置ニ歸ル

四 步哨ノ交代ニ就キ

斥候ノ要領ニ依リ前進シ地物ヲ利用シ下番ノ者ト同姿勢ニテ狀況及守則ノ申送りヲ受ク交代中敵襲アリタルトキハ步哨係ハ新舊兩步哨ヲ指揮シ急射撃ヲ以テ報告スルト共ニ第一ノ抵

抗ヲ爲シ小哨ヲシテ之ニ應スル時間ト場所トヲ得セシムルモノトス

實施要領 假設旗若ハ幕的ヲ以テ敵襲ヲ表ハシ哨長ノ之ニ對スル動作ヲ研究セシム

夜間ハ靜肅ナルヲ以テ音響遠キニ達ス故ニ交代ノ爲ノ前進、歸還、交代中ノ言語ニ就キ爲シ得ル限りノ注意ヲ拂ヒ微音タモ發セシムヘカラス此注意足ラサルトキハ敵ノ斥候ニ哨所ノ位置ヲ悟ラルルノミナラス此機ニ乘シ步哨間ノ中間地區ヨリ步哨線内ニ潛入セラルルノ害アリ

實施要領 夜間交代中下士若ハ上等兵ヲ敵斥候トシ交代時ノ

動作、談話カ如何ナル程度ニ聞エシカヲ檢セシメ其談話ノ要點ヲ後ニ下士哨長若ハ步哨係下士ニ知ラサシム

第五節 體操、劍術ノ助教

中隊一般教育ニ於テハ兵卒教育ニ直接必要ナル教授法ヲ下士ニ教育シ彼等自己ノ技術ヲ熟達セシムル爲ニハ特別教育ヲ施スヲ適當トス

○體操

體操ハ番ニ兵卒ノ心身ヲ爽快ナラシメ體力ヲ保育シ諸器官ノ機能ヲ發達セシムルノミナラス補助トシテ各個教練ノ根本的基礎ヲ作ルモノナルヲ以テ之ヲ行フニ方リテハ絶對ノ嚴格ト絶對ノ

熱心トヲ要ス實施ニ方リテハ力ヲ抜クヘキ所、力ヲ入ルヘキ所ヲ明瞭ニ區別シ必ス其要領ニ合一セシメサルヘカラス否サレハ何等ノ効果ナキノミナラス却テ不用ノ筋肉ヲ發達セシメ必要ノ關節ヲ凝固ナラシムルノ虞アルヲ以テ下士ニハ各科目ノ効用及目的ヲ詳細ニ教育了解セシメ兵卒教育ニ方リテハ各科目開始前簡單ニ其目的及効用ヲ説明セシムヘシ

體操ハ一運動ヲ十回以上行フコトナク屢々隊形、方向、位置ヲ變換シ以テ絶エス新ラシキ興奮ヲ與ヘ兵卒ヲシテ常ニ愉快ニ運動セシムルコトヲ努メサルヘカラス是體操實施ニ方リ下士ノ特ニ注意スヘキ件ナリトス

教官ハ下士カ果シテ此目的ニ合スルヤ否ヤヲ監視シ軌道ヲ脱スル者アレハ直ニ之ヲ矯正スヘキモノトス是下士教育ノ最良手段タリ

尙要求スヘキ件ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 機械體操助手ノ動作、殊ニ危險豫防ニ就キ
- 二 活模範ヲ示スコト
- 三 要領、効用、目的ノ説明適當ナルコト

○劍術

操典ニ曰ク

「戰鬪ニ最終ノ決ヲ與フルモノハ銃劍突擊トス」ト

又曰ク

「突擊ヲ擊退セラレタル場合ニ於テ尙密集部隊ヲ有スルトキハ其推進ニ依リ第二回第三回ノ突擊ヲ敢行スヘシ縦ヒ推進部隊ナキトキト雖幹部ト兵卒トノ勇氣ニ依リ至近ノ所ニ蹈止マリ猛烈ナル射擊ヲ爲シ氣勢ヲ恢復シテ屢々突擊ヲ繰返シ終ニ其目的ヲ達スルニ至リテ止ムヘシ」ト

之ニ依リ之ヲ觀レハ銃劍ノ使用法ニ熟達シアラサルヘカラサルヲ知ル況ンヤ兵卒教育ノ直接其衝ニ當ル下士ハ自ラ其技術ニ修熟シアルノミナラス其教育要領ヲ獲得シ有事ノ日操典ノ要求ニ合スル兵卒ヲ養成セサルヘカラサル責任ヲ有ス然レトモ是形而

下ノ事ノミ抑モ劍術修技ノ目的ハニアリ即チ武技ノ習熟ト氣力ノ養成ト是ナリ人ハ生レナカラニシテ各々異ル才能ヲ有ス即チ氣力旺盛ニシテ技術ニ特有ノ才アルモノト否サルモノトアラシ然ラハ人ノ氣力、技能ハ天性的ノモノニシテ修技ニ依リ獲得シ能ハサルカ、否々、修習ニ依リ發達養成セララルヘキモノトス劍術教範ニ曰ク

「劍術ノ目的ハ白兵ノ使用ニ習熟シ且體力殊ニ氣力ヲ養成シ攻撃精神ヲ發揚スニ在リ」ト

要務令ニ曰ク

「武技ノ教練ハ能ク二箇ノ目的ヲ達成ス曰ク技術ニ習熟シ曰ク

シ膽力ヲ壯大ニス蓋シ武技既ニ習得スレハ心ニ恃ム所アリ氣力隨テ興奮ス」ト

劍術ノ目的蓋シ茲ニ在リ直接教育ノ衝ニ當ル下士ニ能ク此目的ヲ知ラシメ此目的ニ合スル如ク兵卒ヲ教育センコトヲ要求セサルヘカラス

世人或ハ其本末ヲ誤リ其本ヲ忘レテ徒ラニ其末ノ末タル勝敗ヲ爭フコトニノミ汲々トシ或ハ劍術ヲ以テ單ニ一ノ技術ト爲シ木銃使用ノ巧妙ヲ要求スルカ如キモノアルハ國家ノ爲慨嘆ノ至リナリトス斯ノ如キハ如何ニ獎勵スルトモ如何ニ努力スルトモ其効果ヤ形而下ニ止リ其價值ヤ甚タ微々タルモノナルヘシ豈慎マ

サルヘケンヤ

故ニ中隊長ハ下士ニ此目的ヲ了得セシムルト共ニ此目的ヲ達スルニ必要ナル素質ヲ彼等ニ附加セシムルコトヲ努メサルヘカラス即チ下士ノ姿勢ハ正シク一旦構フルヤ不動明王ノ如ク其進ムヤ迅雷疾風ノ如ク動カサルコト山ノ如ク烈シキコト火ノ如ク靜ナルコト林ノ如ク疾キコト風ノ如キ素質ヲ附與シ遂ニ劍道ノ極意ニ達セシメ兵卒ヲシテ劍術最後ノ目的タル攻撃精神ヲ充溢セシメサルヘカラス

第六節 射撃教育ノ助教

操典ニ曰ク

「射撃ハ戦闘經過ノ大部分ヲ占ムルモノニシテ歩兵ノ爲緊要ナル戦闘手段ナリ」ト

然リ射撃ハ歩兵ノ主要ナル戦闘手段ナレハ兵卒ノ之ニ熟達セサルヘカラサルハ何人モ首肯スル所ナルヘシ
 隨テ射撃教育ハ歩兵教育中最モ努力スヘキモノナリトス然レトモ射撃術ハ他ノ技術ト異リ其進歩遅々トシテ努力ノ効果直ニ現ハルヘキモノニアラサルヲ以テ不斷ノ熱心ト倦マサル努力トヲ要ス果シテ現今ノ下士ニ此要求ヲ充足スルモノアリヤ否ヤ甚タ疑ナキ能ハス現代思潮トモ謂フヘキモノハ常ニ新ヲ好ミ奇ヲ求ムルノ風盛ナルコト是ナリ新ヲ求メ奇ヲ好ムノ風ハ射撃術ノ進

歩ニ最モ害アルモノトス、否、却テ退歩スル虞アリ此風ハ物ニ厭キ易キモノナレハ絶エサル熱心努力ト連續的動作トヲ要スル射撃教育ニハ適當ナラサル性質ト謂フヘシ中隊長ハ此不適當ナル性質ヲ有スル下士ヲ手足トシ中隊ノ射撃術ヲ進歩セシムルモノナルヲ以テ綿密ナル思慮ト周到ナル計畫トヲ以テ懇切ニ指導セサルヘカラス

之カ爲ニハ下士ノ精神ヲ陶冶スルヲ第一手段トス即チ中隊長ノ言ハ一言一句モ忽セニセス誠心誠意服從シ利害利便ヲ考フルコトナク直ニ之ヲ實施スル著實ナル精神ヲ有シ一意中隊長ノ意圖ヲ事實ニ表ハスモノナラサルヘカラス換言セハ眞ノ心服アリテ

始メテ其効果ヲ發揚シ得ルモノトス

是精神上ノ要求ナリ此精神ノ涵養ヲ獲ルニ至リテ始メテ形而上ノ要求ヲ爲シ得ヘシ形而上ノ要求トハ如何即チ左ノ如シ

- 一 豫行演習ノ要領ヲ獲得シ其教育方法ヲ了解シ要點ヲ説明シ得ルコトニ慣熟シアルヲ要ス
- 二 兵卒ノ嗜好心ヲ喚起セシメ進取力ヲ起サシムルノ自然ノ誘導者タラサルヘカラス

第三章 特別教育

第一節 實兵指揮

其効果著大ナルヲ以テ努メテ之ヲ行ハシムルヲ可トスレトモ一
般教育ニテ疲勞セル兵卒ヲ更ニ使用スルカ如キハ事情之ヲ許サ
サルコト多シ然レトモ全然一般教育ト共ニ行フ下士教育ニノミ
委スルハ是亦策ノ得タルモノニアラス多少ノ時間ト若干ノ勞力
トヲ費スモ其効果偉大ナルヲ以テ必ス實施スヘキモノナリトス
即チ演習地ヘノ往復ヲ利用シ或ハ演習後若干ノ時間ヲ之ニ割ク
カ如キハ適當ノ處置ナリ

科目

一 掩護隊長

二 側衛司令

三 戰鬪間分隊長

戰鬪間分隊長ニ就キ左ニ一例ヲ示サン

計畫及指導法

- 一 比隣分隊ヲ幕的若ハ旗ヲ以テ示ス
- 二 敵ヲ假設的若ハ幕的ヲ以テ現ハシ尙記號ニ依リ位置、表勢
ノ變換ヲ規定ス

研究項目

一 分隊ノ誘導

此研究ハ一般教育ト共ニ實施シ能フト雖綿密ナル點ニ於テ特
別教育ヲ優レリトス

二 部下ノ監視

分隊長ノ注意スヘキ件ハ兵卒ノ地物利用、照尺装置、目標ノ選定、照準ノ精密、射撃ノ沈著、彈藥ノ使用法、指揮官ニ注意スルヤ否ヤ等ナリ

三 分隊ノ射撃指揮

空包ヲ用ヒ戦闘喧噪ノ狀況ニ於テ敵狀ニ變化ヲ與ヘ其レニ對スル處置ヲ求ムヘシ

四 目標判斷

前記ノ要領ニ依リ敵狀ヲ變化セシメ小隊長ニ報告スヘキモノナルヤ獨斷ヲ以テ處置スヘキモノナルヤヲ研究セシム

五 射撃ノ觀測

射撃ヲ觀測スヘキ感念ヲ有セシメタル上、遠大ナル距離ニ於ケル目視困難ナル目標ノ發見、遠大ナル距離ニ設ケタル敵狀ノ變化、遠大ナル距離ノ地形ヲ視察セシメ以テ熟達セシメ且視力ヲ強健ニス

此研究ハ戦闘射撃ニ於テ實際ニ行ヘハ其効果最モ大ナリ
其他ノ研究ニ就キテハ一般教育部隊教練ノ分隊長ノ項ヲ參照スヘシ

第二節 現地講話

下士教育ノ主ナルモノハ一般教育ト共ニ行フ教育ナリ若之ニテ

教育迂遠ナル科目ハ實兵ヲ指揮セシムルヲ可トスレトモ次ノ如キ狀況ニ於テハ現地講話ヲ行フヲ適當ナリトス而シテ之ヲ行フニハ時ヲ選フヘシ

(一) 時機

- 一 豫想事故(勤務、被服裝具ノ手入)ノ爲野外演習ヲ終リ兵卒ハ歸營セシムルモ尙餘時ヲ存シ下士教育ヲ行フヲ許ス場合
- 二 休憩時ノ利用
- 三 野外演習科目カ中隊附將校及上等兵ニテ實施シ得ルトキハ中隊長ハ下士ノ教育ヲ爲ス

(二) 科目

- 一 斥候長ノ動作
 - 二 小哨、哨所位置ノ決定、哨所ノ數等時間ノ關係上一般教育ト共ニ行フ能ハサル科目
 - 三 設營司令
 - 四 外衛兵司令
 - 五 尖兵長
 - 六 地圖ノ見解
- 研究項目
- 外衛兵司令
- 一 設置スヘキ場合及位置

敵ノ近傍ニ宿營セルトキ或ハ土民ノ敵ニ内應シ又ハ間諜出入ノ虞アルトキ直接警戒ノ爲設ク位置ハ宿營地ノ出口外圍或ハ前方ニ在ル要點トス

二 任務及動作

宿營地直接ノ警戒ニ任ス即チ敵ノ急襲ヲ警戒シ警急ニ際シテハ更ニ命令ノ下ルマテ其位置ヲ死守シ敵襲ヲ防止ス
土民ノ出入ヲ監視シ要スレハ之ヲ禁止スルコトアリ
前哨若ハ比隣宿營地ト連絡ス

傳令使ニ對シ舍營司令官、高等司令部又ハ各部隊ノ位置ヲ指示ス

小哨勤務ノ規定ニ據ル

時宜ニ依リ外方ニ對シ道路ヲ閉塞スルコトアリ
爲シ得ル限り黄昏前ニ能ク其地形ヲ認識シ且其占ムヘキ位置ニ在ルヲ要ス

司令ハ舍營司令官、日直將校ノ宿舍及土民、軍人ニ對スル處置ヲ知り部下兵卒ニ達スヘシ

不意ノ敵襲ニ際シ躊躇セハ大ナル危殆ニ陥ルヘキトキハ司令ハ自ら其責ニ任シ速ニ號音ヲ吹奏セシムヘシ

○設營下士

一 部隊到着前ノ業務

設營ニ任セラレタル下士ハ大隊副官ヨリ割り當テラレタル中隊舍營區域内ノ疊數、病人ノ有無、生活ノ程度ヲ檢スヘシ此際ハ叮嚀ナル言語ト親切ナル動作トヲ以テ人民ニ應接スヘシ徒ニ威ヲ振フハ却テ彼等ノ反感ヲ買フモノトス一人ノ領シ得ヘキ疊數ニ依リ成ルヘク建制ヲ害セサル如ク宿舍割ヲ爲スヲ要ス

中隊宿營地ノ略圖ヲ調製シ部隊到着ノ際中隊長ニ呈スヘシ此略圖ニハ舍營司令官、中隊將校室、同事務所ノ宿舍、大隊炊事場、醫務室等ヲモ記載スルヲ要ス小紙片ニ舍主ノ番地、疊數及之ニ相當スル人員ヲ記載シ置キ

部隊到着後必要ニ應シテ配分シ得ル如ク準備スヘシ右準備終了セハ宿營地入口ニ中隊ヲ迎フヘシ若準備未了ト雖必ス傳令一名ヲ出スヲ可トス

二 部隊到着後ノ業務

中隊長ニ宿營地ノ狀況ヲ報告シ舍營地略圖ヲ呈スヘシ天候、地形等ニ依リ探シ難キ宿舍ニハ自ラ案内スヘシ以上述フル所ハ單ニ一例トシテ外衛兵司令、設營下士ニ就キ要求スヘキ點ヲ列舉セシニ過キス之カ活用ハ中隊長ニ俟タサルヘカラス尙計畫實施ニ資センカ爲後章ニ想定及指導要領ヲ述フ參照セラルヘシ

第三節 圖上戰術

生地教育ヲ以テ最良ノ手段トスレトモ一般教育ノ關係上其度數及時間ニ制限アリテ全然生地教育ノミニ委スルヲ得ス學科目ニ依リ生地教育ニテハ却テ教育ノ目的ヲ達スルニ困難ナルモノアリ

又圖上戰術ニ於テ典範令ノ摘講ヲ爲シ然ル後同一想定ニ於テ生地教育ヲ施サハ容易ニ原則ヲ了解セシムルノミナラス彼等ノ判斷ノ適當ナラサリシコト及思慮ノ周密ナラサリシコトヲ證スルニ適當ナリ

報告、通報記載ニ關スル教育ハ圖上戰術ニ於テ其要領ヲ了得セ

シメ生地教育ニ於テ之ニ熟達セシムルヲ要ス

計畫ニ就キテハ後節特別教育ノ計畫ヲ參照セラルヘシ

第四節 講堂教育

講堂教育ハ實地教育及現地講話ニ於テ行フ能ハサル事ノミニ限ルヘシ徒ニ典範令ノ摘講ヲ爲スカ如キハ其當ヲ得タルモノニアラス

然レトモ下士特別教育中風紀衛兵司令、宿舍長ノ動作ノ如キハ生地教育若ハ圖上戰術ニテ教育シ能ハサルモノナレハ已ムヲ得ス講堂教育ヲ施ササルヘカラサルナリ尙左ニ列舉セル科目ハ是亦講堂教育ニ俟ツヘキモノトス

- 一 典範令改正條項ノ説明
- 二 射擊學理ノ摘講
- 三 普通學(作文、軍用文書式)
- 四 測圖學(伸縮寫圖及斷面圖ノ調製)
- 五 勤務ニ關スル件
- 六 中隊教育方針ノ改正
- 七 講評、訓示ノ敷衍及將來ノ希望
- 八 風紀衛兵司令
- 九 宿舍長

左ニ二三ノ範例ヲ示サン

研究項目

○風紀衛兵司令

一 隸屬

舍營口直將校ニ隸屬スルモノトス舍營口直將校ハ通常大尉トシ大部隊ニ在リテハ佐官ヲ以テス往々之ヲ誤リ部隊口直將校ニ報告スルモノアリ

二 任務

舍營地内ノ靜肅及軍紀ヲ維持スヘシ
 外衛兵ト連絡スヘシ又時機ニ依リ外衛兵ヲ兼ヌルコトアリ
 住民ノ舉動殊ニ住民ト兵卒トノ間ニ騷擾ヲ發生セシトキハ直

ニ舍營日直將校ニ報告シ適當ノ處置ヲ爲スヘシ
井泉ノ哨兵即チ汲水監視法及貴重建築物ノ保護ニ關シテハ舍
營日直將校ノ命ニ依リ司令ハ嚴密ナル監視法ヲ設クヘシ

三 位置

交通自在ナル舍營地ノ中央トス通常舍營司令官又ハ高等司令
部宿舍ノ附近トス

四 動作

指定ノ位置ニ到リ舍營日直將校ノ命ヲ受ケ歩哨ヲ配布ス
居民ノ舉動疑ハシキトキ又ハ舍營地ノ狀況兵卒ヲシテ風紀ヲ
害セシムルノ虞アルトキハ巡察ノ度數ヲ増加スヘシ

非常號音ハ高級古參ノ將校、舍營司令官又ハ舍營日直將校ノ
命ニ依リ吹奏スルモノトス

五 警報及火災ニ際スル處置

警報及火災ニ際シテハ舍營司令官ノ命アルマテ其地點ヲ去ル
コトナク臨機ノ處置ヲ採ルヘシ要スレハ各哨兵ヲ増加ス
火災ニ際シテハ危殆ノ度ニ依リ舍營日直將校ノ命ヲ待ツカ又
ハ獨斷ヲ以テ火災呼集ノ號音ヲ吹奏セシムヘシ

○宿舎長

一 入舎前ノ注意

配布セラレタル人員ヲ檢シ次ノ事ヲ兵卒ニ申渡スヘシ即チ警

急場、翌日整列ノ集合場、中隊長ノ宿舍、同事務室、大隊炊事場、散歩時間及區域、特ニ發セラレタル禁令
 舎前ニ於テ入舎後ノ注意ヲ與ヘタル後又銃セシメ背囊ヲ下ロシ靴傷ノ検査ヲ爲ス

二 宿舍ノ整備

銃架、背囊、裝具ノ位置ヲ決定ス其位置ハ床間、壁、戸障子ヲ傷ケサル所ナルヲ要ス萬已ムヲ得サレハ莖ノ如キモノヲ用ヒ被害ノ度ヲ尠クスヘシ
 彈藥ハ火氣ニ遠キ所ニ格納スヘシ
 背囊、裝具ハ必ス個人毎ニ一所ニ整頓セシメ火急ノ際混雜セ

サル如クスヘシ

三 宿舍長ノ監視スヘキ件

起居動作ヲ高尚ナラシメ軍人ノ體面ヲ保持セシムルコト
 便所ヲ不潔ナラシメサルコト
 家人ヲ呼使シ家具ヲ妄リニ使用セシメサルコト
 就寢時間ヲ多カラシムルコト之カ爲暴飲、雜談ヲ禁スヘシ
 火氣ニ注意スルコト

四 緊急集合

緊急集合ノトキハ靜肅ニ武裝ヲ整フヘシ混雜狼狽ノ結果裝具ノ順序ヲ誤リ或ハ一部ヲ忘ルルコトアリ宿舍長ハ迅速機敏ニ

検査スヘシ

検査終ラハ中隊集合場ニ迅速ニ集合スヘシ敵兵若ハ其他ノ障
碍ノ爲集合場ニ集合シ能ハサルトキハ獨斷ヲ以テ敵ニ對シ或
ハ責任ヲ以テ必要ノ處置ヲ爲スヘシ

五 火災ニ對スル處置

自己宿舍ヨリ發火ノ際ハ狼狽スルコトナク沈著シテ全兵卒ヲ
指揮シ先ツ武器、裝具ヲ出シ然ル後消防ニ盡力スヘシ要ハ火
災消防ニアラスシテ火災豫防ナルコトヲ忘ルヘカラス
宿營地ニ火災發セシトキハ直ニ武裝ヲ整ヘ整列シ急速中隊ノ
集合場ニ至ルヘシ若自己宿舍ノ近傍ニシテ中隊集合場ノ方却

テ遠キトキハ獨斷ヲ以テ臨機ノ處置ヲ爲シ消防又ハ警戒ニ從
事スヘシ

六 出發日ノ業務

出發時間前約一時間ニ各兵卒ヲ起スヘシ

朝食ハ必ス十分ニ爲サシムヘシ食慾進マサル者アルトキ又ハ
遅刻ノ虞アルトキハ携帯セシムヘシ

水筒ニ湯ヲ充タスヘシ

整列前ニ大小便ヲ爲スヘク兵卒ニ注意スヘシ

兵卒出舍後室内ヲ檢スヘシ殊ニ遺留品ナキヤニ注意スヘシ

集合場ニハ集合時間五分前ニ到着シ小隊長ニ宿舍ノ景況、兵

卒ノ状態ニ就キ報告スヘシ

第五節 體操、劍術、射擊

數多教育手段中効果迅速顯著ナルハ活模範ニ在リ體操、劍術、射擊ニ於テ殊ニ然リトス故ニ兵卒教育ノ衝ニ當ル下士ハ此等技術ノ諸科目ヲ確實ニ實施シ得ル如ク熟達シアルヲ要ス殊ニ射擊ニ於テハ彼等ヲシテ先ツ嗜好心ヲ喚起セシムルヲ要ス然ラサレハ兵卒ニ嗜好心ヲ起サシムルコト能ハス助教、助手トシテノ動作及教習試合ニ於ケル教官動作ノ教育ハ必ス一般教育ト共ニ行ヒ其技術ヲ熟達セシムル爲特別教育ヲ施スモノトス

一 體操、劍術

專任將校、助手(戶山學校學生タリシ下士アラハ最モ可ナリ)各一名ニテ擔任セシム

二 射擊

イ 特別射擊

競點或ハ名譽標的ヲ以テ行フ

ロ 自己班ノ兵卒ノ試験射擊ノ一部ヲ擔任セシム

第六節 計畫ト想定

○斥候長ノ研究

想定

片山村占領ノ目的ヲ以テ北進中ナル此小隊ハ中野村鐵道陥切ニ

達シタルニ土民ヨリ左ノ事ヲ聞ク

歩兵約二、三十名上高田村東南端ヲ占領セリ

研究項目

- 一 小隊長ノ處置(操第二部三、四)
 - 二 攻撃(操第二部二十六、第一部百四十九、百五十一、百六十三)
 - 三 追撃(操第一部百六十四)
- 斥候長ノ研究

想定

上落合村東端隘路占領ノ目的ヲ以テ諏訪村ヨリ西進中ナル某伍

長ハ同村西端ニ達シタルトキ土人ヨリ左ノ情報ニ接ス

先刻敵ノ歩兵約二、三十名新井村ニ休憩セルヲ見タリ

研究項目

- 一 出發ニ際シ分隊長カ下ス命令(要三)
 - 二 隘路ノ占領法(操第二部五十六、六十一、六十四)
 - 三 敵襲ニ對スル動作(操第二部七十、七十二、七十三)
 - 四 中隊ヘノ報告(要十八、十四、十六、十五)
- 小哨長ノ研究

想定

一 敵ノ前哨線ハ下練馬村ヨリ上練馬村ニ互レリ

- 二 中隊ハ前哨中隊トナリ下落合村西端三叉路ニ位置ス
 - 三 某ハ部下小隊ヲ以テ第一小哨トナリ下落合村西北方約五百米ノ三叉路ニ位置シ長崎村ニ通スル片點線路及白子村ニ通スル二條實線路ヲ警戒スヘシ
- 且中隊ノ西方約五百米ニ在ル第二獨立下士哨ト連絡スヘシ

研究項目

- 一 中隊ヨリ小哨ノ位置ニ至ル迄ノ動作(要百三十八)
- 二 小哨位置ノ決定(要百二十三)
- 三 歩哨ノ配置法(要百三十二、百三十三)
- 四 報告及略圖ノ調製(要二十六、百四十一)

五 敵襲ニ對スル處置(要百四十三)

○側衛司令ノ指導法

想定(二萬分一板橋)

音羽町ヨリ下落合村ヲ經テ葛ヶ谷村ニ進出セントスル中隊ノ左側警戒ノ爲ニ出サレタル某分隊高田村ヲ經テ鐵道踏切ニ達シタルトキ敵ノ三、四十名ノ歩兵藥王院高地ヲ下リタルヲ知ル

問題

分隊長ノ決心

研究項目

側衛陣地ヲ占領スル場合(要九十一)

○尖兵長ノ研究

想定

新井村附近ノ敵ニ向ヒ牛込ヨリ前進スル大隊ノ前衛タル中隊ハ
某軍曹ノ率キル半小隊ヲ尖兵ト爲ス其任務ハ諏訪村、上落合村
ヲ經テ新井村ニ向ヒ前進スルニ在リ

研究項目

- 一 出發ニ臨ミ尖兵長ノ下ス命令
- 二 尖兵長ノ位置
- 三 斥候ノ使用法

四 戦闘

要務令第二篇第一章參照

要務令八十四及七十四參照

○掩護隊長ノ研究

想定

- 一 大隊ハ本夜牛込附近ニ宿營ス
- 二 中隊ハ前哨中隊トナリ二百米射躲西方踏切附近ニ位置シ戸
塚村ヨリ鎧神社ニ互ル間ヲ警戒セントス

命令

軍曹ハ部下分隊ヲ率キ上落合村西端附近ニ位置シ前哨配布ヲ掩
護スヘシ

研究項目

- 一 掩護ノ要領
- 二 陣地ノ選定
- 三 敵兵現出前ノ處置
- 四 敵兵現出後ノ處置

操典第二部五十七參照

要務令百十五及百三十八參照

○設營下士ノ研究

第一中隊ノ某軍曹ハ大隊副官ヨリ左ノ家屋ヲ受領ス

イ、六 ロ、八 ハ、一六 ニ、一二 ホ、一八

ヘ、八 ト、一二 チ、八 リ、一〇 ス、一二

ル、一〇 計一二〇

研究項目

舍營券調製(要二百三十七)

日直下士ノ業務(要二百四十二)

○外衛兵司令ノ研究

想定

一 聯隊ハ田中村附近ノ戰鬪利アラズ退却シテ本夜下落合村、長崎村ニ宿營ス

二 下落合村西部ニ第一中隊宿營ス

三 某軍曹ハ上等兵一、卒九名ヲ率キテ下落合村西端ヲ警戒ス
ヘキ任務ヲ受ク

研究項目

- 一 外衛兵ノ位置(要二百四十四)
- 二 歩哨ノ數、位置、守則(要二百四十四)

結論

以上述フル所ハ主トシテ下士教育ノ計畫ト指導法トノ大要ノミ
要スルニ緒言ニ於テ述ヘシカ如ク下士ヲシテ能ク其職務ニ精通
シテ完全ニ其任ヲ果シ得ル如ク彼等ノ能力ヲ啓發スルハ決シテ
之ヲ一定スルヲ得サルモノトス然レトモ熱心ト努力トハ事ヲ成
就スルニ最モ主要ナル武器ナリ故ニ機會ヲ逸スルコトナク拮据
黽勉シ且明晰ナル頭腦ヲ以テ各下士ノ識量ヲ考察シテ之ニ應ス
ル計畫指導ヲ適當ナラシメハ日ナラスシテ理想ノ下士ヲ得中隊
ノ爲將タ軍國ノ爲愉快ナル現象ヲ生スルナルヘシ努メヨ中隊長
勵メヨ下士

下士教育方案 終

明治四十四年七月五日印刷
明治四十四年七月九日發行

正價金拾五錢

不許複製

著作
者
代
表
者
印
發
刷
行
者
及

印刷所

軍事研究會
高倉嘉夫

東京市神田區今川小路二丁目七番地

厚生堂印刷部

東京市京橋區北橫町八丁目地

東京市神田區今川小路二丁目十七番地

發行所

忠誠堂

振替貯金口座東京二〇四三一

最新東京市全圖

紙質堅牢
印刷鮮明

壹枚 正價 金拾五錢 郵稅 金貳錢

最新東京市區分地圖

全十六葉
クロース製
金文字入
ポツケツト用

壹冊 正價 金參拾五錢 郵稅 金四錢

最新東京名所寫真帖

全四十八景
大和綴頗美本

附 電車線路略圖入

壹冊 正價 金貳拾五錢 郵稅 金四錢

最近大日本全圖

全壹枚 縱二尺八寸 橫二尺五寸 正價 金貳拾錢 送料 金貳錢

軸製 縱二尺六寸 橫三尺 正價 金六拾錢 送料 金八錢

此圖は明治四十三年十一月の新鑄に係るを以て帝國本土、臺灣、樺太は勿論新領土朝鮮半島の全圖をも掲げ尙陸地には鐵道各停車場を漏なく記載し海上には船舶航路の湮敷を示し緻密鮮明實に理想的最新式完全無缺の良圖なり

軍事研究會編

青年將校の修養

菊版半截形洋布製
ポケットト入美本

全壹冊 正價金拾五錢 郵税金貳錢

夫れ將校は軍人精神の淵源にして一國元氣の樞軸なり其教育薰陶に依り國軍の精神を最高度に發揚すべきものなれば居常品性の鍛鍊と心膽の研磨を怠るべからざるは吾曹の喋々を要せざる所とす殊に青年將校に在りては前途洋々として春海の如く他日大成の基礎を定むるは此時に在るを以て切蹉匪勉日となく夜となく修養に繼ぐに修養を以てし一面に於ては自己の向上を求め他面に於ては部下の儀表たることを努めざるべからず本書は是等人士の爲に規箴となすべき事項を詳説細叙したるものにして論旨の穩健妥當なると用意の周到綿密なるとは殆んど他に其比を見ざる所なり

最近 大日本分縣地圖

全五拾枚
一枚金七錢
郵税金貳錢

既刊

東京府全圖 ● 千葉縣全圖 ● 神奈川縣全圖
埼玉縣全圖 ● 茨城縣全圖 ● 山梨縣全圖

日本全國各府縣を壹枚づつに分載したるものにして
前掲既刊の外引續き印刷著手中なれば日ならずして
全部五拾枚完結すべし何れも正確なる測量に基き巧
緻なる製圖を以てしたれば坊間流布の粗製品と目を
同じうして論ずべきにあらず

軍事研究會編

機關銃の用法

四六半截版
紙裝美本

全壹冊 正價金拾貳錢 郵税金貳錢

機關銃の我が軍隊に採用せられたること茲に數年其操縦を論じ其使用を説きたるの書世上既に乏しからずと雖或は主として外國の例規を述べ我が國の實際に適合せざるものあり或は編纂粗雑にして現行制式に乖離するものあり其他繁に流れ簡に失し探つて以て規矩準繩となすべきもの殆んど稀なり本書は此缺陷を補はんが爲新に編纂したるものにして卷頭先づ使用に關する注意事項を細説し續いて攻撃、防禦、追撃及退却に於ける各種の用法を詳述し尙緒論及結論を首尾に加へたるものなれば機關銃の用法としては一點間然すべき所なきものなるを信ず請ふ一本を購らて其眞價を知り給はんことを

Y S 殿 著

小哨之指針

菊半截版洋布製
ポケット入美本

全壹冊 正價金拾五錢 郵税金貳錢

本書は一年志願兵、下士、上等兵、下士候補者、上等兵候補者諸君の爲に野外演習の小哨に關する任務を詳述したるものにして其内容は左の目次に就きて知り給はんことを乞ふ

第一章 小哨の任務位置及兵力、第二章 地形の認識、第三章 小哨の配置、第四章 小哨の休養法、第五章 小哨の報告、第六章 小哨の配置、第七章 小哨の交代、第八章 小哨の戦闘、第九章 小哨の配置、第十章 小哨の交代、第十一章 小哨の戦闘、第十二章 小哨の配置、第十三章 小哨の交代、第十四章 小哨の戦闘、第十五章 小哨の配置、第十六章 小哨の交代、第十七章 小哨の戦闘、第十八章 小哨の配置、第十九章 小哨の交代、第二十章 小哨の戦闘、第二十一章 小哨の配置、第二十二章 小哨の交代、第二十三章 小哨の戦闘、第二十四章 小哨の配置、第二十五章 小哨の交代、第二十六章 小哨の戦闘、第二十七章 小哨の配置、第二十八章 小哨の交代、第二十九章 小哨の戦闘、第三十章 小哨の配置、第三十一章 小哨の交代、第三十二章 小哨の戦闘、第三十三章 小哨の配置、第三十四章 小哨の交代、第三十五章 小哨の戦闘、第三十六章 小哨の配置、第三十七章 小哨の交代、第三十八章 小哨の戦闘、第三十九章 小哨の配置、第四十章 小哨の交代、第四十一章 小哨の戦闘、第四十二章 小哨の配置、第四十三章 小哨の交代、第四十四章 小哨の戦闘、第四十五章 小哨の配置、第四十六章 小哨の交代、第四十七章 小哨の戦闘、第四十八章 小哨の配置、第四十九章 小哨の交代、第五十章 小哨の戦闘、第五十一章 小哨の配置、第五十二章 小哨の交代、第五十三章 小哨の戦闘、第五十四章 小哨の配置、第五十五章 小哨の交代、第五十六章 小哨の戦闘、第五十七章 小哨の配置、第五十八章 小哨の交代、第五十九章 小哨の戦闘、第六十章 小哨の配置、第六十一章 小哨の交代、第六十二章 小哨の戦闘、第六十三章 小哨の配置、第六十四章 小哨の交代、第六十五章 小哨の戦闘、第六十六章 小哨の配置、第六十七章 小哨の交代、第六十八章 小哨の戦闘、第六十九章 小哨の配置、第七十章 小哨の交代、第七十一章 小哨の戦闘、第七十二章 小哨の配置、第七十三章 小哨の交代、第七十四章 小哨の戦闘、第七十五章 小哨の配置、第七十六章 小哨の交代、第七十七章 小哨の戦闘、第七十八章 小哨の配置、第七十九章 小哨の交代、第八十章 小哨の戦闘、第八十一章 小哨の配置、第八十二章 小哨の交代、第八十三章 小哨の戦闘、第八十四章 小哨の配置、第八十五章 小哨の交代、第八十六章 小哨の戦闘、第八十七章 小哨の配置、第八十八章 小哨の交代、第八十九章 小哨の戦闘、第九十章 小哨の配置、第九十一章 小哨の交代、第九十二章 小哨の戦闘、第九十三章 小哨の配置、第九十四章 小哨の交代、第九十五章 小哨の戦闘、第九十六章 小哨の配置、第九十七章 小哨の交代、第九十八章 小哨の戦闘、第九十九章 小哨の配置、第一百章 小哨の交代、第一百零一章 小哨の戦闘、第一百零二章 小哨の配置、第一百零三章 小哨の交代、第一百零四章 小哨の戦闘、第一百零五章 小哨の配置、第一百零六章 小哨の交代、第一百零七章 小哨の戦闘、第一百零八章 小哨の配置、第一百零九章 小哨の交代、第一百一十章 小哨の戦闘、第一百一十一章 小哨の配置、第一百一十二章 小哨の交代、第一百一十三章 小哨の戦闘、第一百一十四章 小哨の配置、第一百一十五章 小哨の交代、第一百一十六章 小哨の戦闘、第一百一十七章 小哨の配置、第一百一十八章 小哨の交代、第一百一十九章 小哨の戦闘、第一百二十章 小哨の配置、第一百二十一章 小哨の交代、第一百二十二章 小哨の戦闘、第一百二十三章 小哨の配置、第一百二十四章 小哨の交代、第一百二十五章 小哨の戦闘、第一百二十六章 小哨の配置、第一百二十七章 小哨の交代、第一百二十八章 小哨の戦闘、第一百二十九章 小哨の配置、第一百三十章 小哨の交代、第一百三十一章 小哨の戦闘、第一百三十二章 小哨の配置、第一百三十三章 小哨の交代、第一百三十四章 小哨の戦闘、第一百三十五章 小哨の配置、第一百三十六章 小哨の交代、第一百三十七章 小哨の戦闘、第一百三十八章 小哨の配置、第一百三十九章 小哨の交代、第一百四十章 小哨の戦闘、第一百四十一章 小哨の配置、第一百四十二章 小哨の交代、第一百四十三章 小哨の戦闘、第一百四十四章 小哨の配置、第一百四十五章 小哨の交代、第一百四十六章 小哨の戦闘、第一百四十七章 小哨の配置、第一百四十八章 小哨の交代、第一百四十九章 小哨の戦闘、第一百五十章 小哨の配置、第一百五十一章 小哨の交代、第一百五十二章 小哨の戦闘、第一百五十三章 小哨の配置、第一百五十四章 小哨の交代、第一百五十五章 小哨の戦闘、第一百五十六章 小哨の配置、第一百五十七章 小哨の交代、第一百五十八章 小哨の戦闘、第一百五十九章 小哨の配置、第一百六十章 小哨の交代、第一百六十一章 小哨の戦闘、第一百六十二章 小哨の配置、第一百六十三章 小哨の交代、第一百六十四章 小哨の戦闘、第一百六十五章 小哨の配置、第一百六十六章 小哨の交代、第一百六十七章 小哨の戦闘、第一百六十八章 小哨の配置、第一百六十九章 小哨の交代、第一百七十章 小哨の戦闘、第一百七十一章 小哨の配置、第一百七十二章 小哨の交代、第一百七十三章 小哨の戦闘、第一百七十四章 小哨の配置、第一百七十五章 小哨の交代、第一百七十六章 小哨の戦闘、第一百七十七章 小哨の配置、第一百七十八章 小哨の交代、第一百七十九章 小哨の戦闘、第一百八十章 小哨の配置、第一百八十一章 小哨の交代、第一百八十二章 小哨の戦闘、第一百八十三章 小哨の配置、第一百八十四章 小哨の交代、第一百八十五章 小哨の戦闘、第一百八十六章 小哨の配置、第一百八十七章 小哨の交代、第一百八十八章 小哨の戦闘、第一百八十九章 小哨の配置、第一百九十章 小哨の交代、第一百九十一章 小哨の戦闘、第一百九十二章 小哨の配置、第一百九十三章 小哨の交代、第一百九十四章 小哨の戦闘、第一百九十五章 小哨の配置、第一百九十六章 小哨の交代、第一百九十七章 小哨の戦闘、第一百九十八章 小哨の配置、第一百九十九章 小哨の交代、第二百章 小哨の戦闘

最新名譽標的

畫面は斬新なる漆筆畫にして
て大家の指導により調製し
たる極て風雅優麗の圖なり

第一號 三十點 湖畔の富士 第二號 三十點 雲 龍

第三號 三十點 田子の浦 第四號 三十點 暴瀧

第五號 三十點 深山の溪川 第六號 三十點 湖邊の白帆

定價壹枚金五拾錢 小包料三枚以上弊店自辨す

最近軍事界の進運に伴ひ日に月に射撃術の勃興せるは著しきものにして射撃教育家諸彦の苦心せらるる所なり今や各隊に在りては射撃術獎勵の目的にて種々懸賞競技行はれ技術練磨せらるる弊店曩に新式名譽標的を調製發賣するや非常の御好評を蒙れり今や進んで斬新なる最新名譽標的を調製し斯術練磨の爲め射手各位の好紀念品として又射撃術獎勵の好同伴として提供せんとす射撃教育熱心なる諸彦幸に御試用の榮を賜はらんことを希ふ

軍事研究會編

略圖の書方

菊半截版
裝釘美麗

全壹冊 正價金參拾錢 郵税金四錢

正確簡明に描かれたる略圖は啻に繁雜なる報告文を節約し得るのみならず如何に巧妙の文字も尙言ひ現はすことを得ざる點まで遺憾なく表現し得べきものにして野外の勤務上緊要缺くべからざるの一技術なれば苟も軍人たる者之が修習に努むべきや言を待たず本書は周到なる用意を以て其平易明確に描法を説明し瑣細の注意事項に至るまで深切丁寧に列舉し尙幾多の實例を掲げ讀者をして直に斯術の蘊奥を極めしむるを期したるものなれば坊間流布の類書に比し優に一頭地を抽出したるは江湖自ら定評の在るあり敢て吾曹の自畫自讚を要せざるなり

軍事研究會編

操典答案の書方

菊四截版洋布製
ポツケツト入美本

全壹冊 正價金貳拾五錢 郵税金四錢

時勢の進運に伴ひ軍人諸君の研究せらるべき事項益々多端となり尋常の方法手段を以てしては夜を以て日も遺憾なく典令の要項を修得するに足らぬか時間と努力とを節し其目次左の如し

●操典の部 ○第一章中隊、第二章大隊、第三章聯隊及旅團、第四章歩兵の戦闘動作、第八章防禦陣地を占領せる敵に對する攻撃、第九章防禦、第十章追撃、第十一章退却、第十二章森林及住民地の戦闘、第十三章山地及河川の戦闘、第十四章司令部と軍隊との連繫、第二章搜索勤務、第三章要務令の部 ○第一章司令部と軍隊との警戒、第五章前哨、第六章行軍、第七章警戒勤務の通則、第一章司令部と軍隊との警戒、第五章前哨、第六章行軍、第七章警戒勤務の通則、第八章給養、第九章彈藥の補充、第十章鐵道、第十一章船舶の輸送

新式名譽標的

書面は油繪にて名家の肉筆に成り縁は繻珍を以て美麗に裝飾を施せり

第一號 三十點 嶽上の荒鷺	第二號 三十點 花上の胡蝶
第三號 三十點 薄暮の蝙蝠	第四號 三十點 月下の狸
第五號 三十點 瀑上の猿猴	第六號 三十點 叢林の雀

●壹 枚 定價金四拾五錢 送料金八錢
●六枚壹組 定價金貳圓七拾錢 送料金拾貳錢

◎書面は前記六種一揃の外御好に應じ如何様にも調製可仕候但し此分は枚數に拘らず壹枚金五拾五錢の割に御座候

◎御注文次第直に發送仕候

N N 殿 著

分隊長ノ指針

菊四裁判布洋製
ポケット入美本

全一冊◎正價金拾貳錢◎郵税金貳錢

此書は一年志願兵、下士、上等兵、下士候補者、上等兵候補者諸君の爲に其責務の在る所を示し任務の要領を詳述 たるものにして各個教練部隊教練、野外演習に於ける絶好の参考書として諸君の前に之を提示するは決して無要の事に非ざるを信ず其内容は左の目次に就きて知り給はんを請ふ

一各個教練 二散兵教練 三部隊教練の分隊長 四戦闘間の分隊長
五旅次行軍に於ける分隊長 六警戒行軍に於ける斥候長 七前哨に於ける斥候長 八歩哨係下士上等兵 九獨立下士哨と下士哨長 十展望哨に任せられたる下士上等兵 十一工事に際する分隊長 十二外衛兵司令 十三露營に於ける分隊長 十四風紀衛兵司令 十五宿舍長

新式照準托架

説明書附

◎正價壹脚金九圓也(送料實費申受候)

◎前金御注文に限り送料不要(但し滿韓清樺は送料實費申受候)

火戦は戦闘の大部を占め射撃の巧拙は實に軍隊の價值を左右すべきを以て其教育の至緊至用なる特に喋々を要せざる所也吾曹茲に見るあり居常射撃教育の進歩發達に資せん事に腐心し曩に鯉淵式托架を發賣せしに幸に非常の好評を博し各隊の御採用を蒙り素志の幾分を貫徹するを得しと雖該托架たる機能完美を極め從て形狀の大と價格の不廉とを免れず單に之を新兵の照準教育に使用するは寧ろ牛刀割鶏の憾なき能はず而して現時教育の爲普く使用せられつゝある三脚托架は其構造不精粗笨に失し微弱なる風力の交感も尙照準に影響を及ぼすのみならず

S T 殿 著

戦闘射撃及擬習

四六判
洋装美本

◎全壹冊◎定價金參拾五錢◎郵税金四錢

由來戦闘射撃は一種特別の科目にして之が實施は頗る繁雜なるが如く
思惟せられ其必要を認めつゝ他の教練演習の如く屢々實施せられざる
は一には射場、經費等の關係に依るべしと雖而も又其計畫及實施に就
きて研究の不充分なるに基因するもの無きにしもあらざるやを疑ふ從
つて之が擬習の如きも進歩甚だ遅々として遺憾に耐へざるものありと
は教育の衝に當れる某將校が吾曹に語られし所の言あり
本書は主として此缺陷を補はんが爲に著されたるものにして此道の研
究に缺くべからざる良書なり

鯉淵式托架

水平器説明書附

◎正價壹脚金參拾貳圓(送料實費申受候)

◎前金御註文に限り送料不要(但し滿韓清樺は送料實費申受候)

射撃教育の完成は頗る困難にして熱心の指導、緻密の計畫、巧妙の手
段を以てするも容易に其目的を達する能はざるは當事者の夙に認むる
所なり吾曹之を憂ひ其研究の便に供せん爲多年の苦心を積みて鯉淵式
托架を發明せり抑も此托架を使用するときは新兵及未熟の古兵に教育
するに當り正照準の方法を能く理解せしむるの利益あるのみならず試
驗射撃用としては僅少の彈藥を以て正確なる照準點を發見し銃の躲避
を檢査し得べし今や二年兵役制は實施せられ短日月に夥多の事を教育
すべき必要あるのみならず火器の進歩は益々射撃教育の緻密を要する
を以て容易に其射手を養成せんとするには勢、機械力を藉らざるを得
ず故に實射に演習に此托架を利用するときは多大の力を費さずして能
く其目的を達するを得べし

266
356

距離測量手簿

正價金貳錢五厘

百冊以上金貳錢 送料弊店自辨仕候

距離測量手簿は目下御需要の時期に際會するを以て各店競うて之を發行すと雖弊店出版のものは頗る其内容を異にし某將校の手録に係る距離測量の要訣を卷頭に添附し以て兵卒諸君實地研究の資料に供するのみならず用紙印刷等特に充分の注意を加へたれば之を他に比し優に一頭地を抽出したるものなりと確信すを陸續御注文の榮を賜へ

軍隊辭典

野外要務令編 全一冊

洋裝四六半切
正價金拾五錢
郵稅金

野外要務令全中文字辭典 著者 陸軍省 發行 陸軍省印刷部

6

051370-000-5

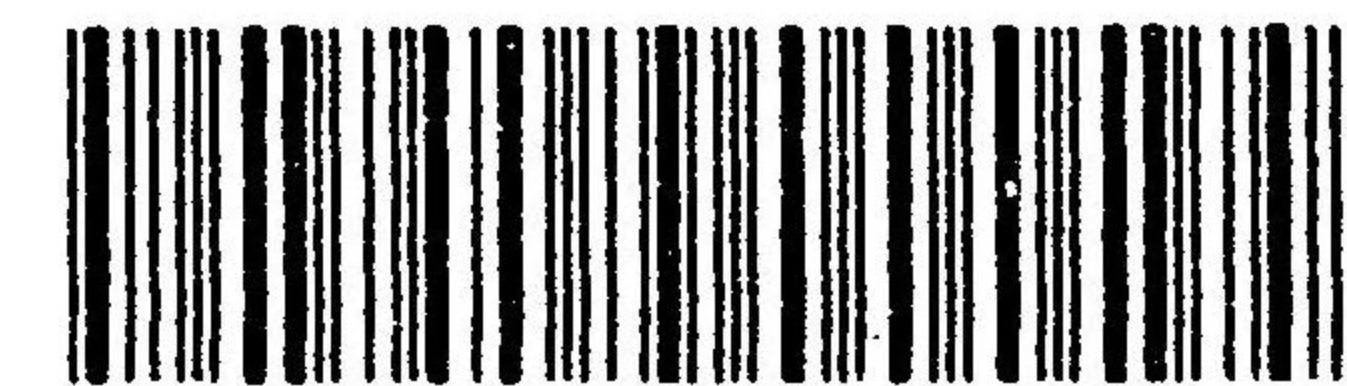
特66-425

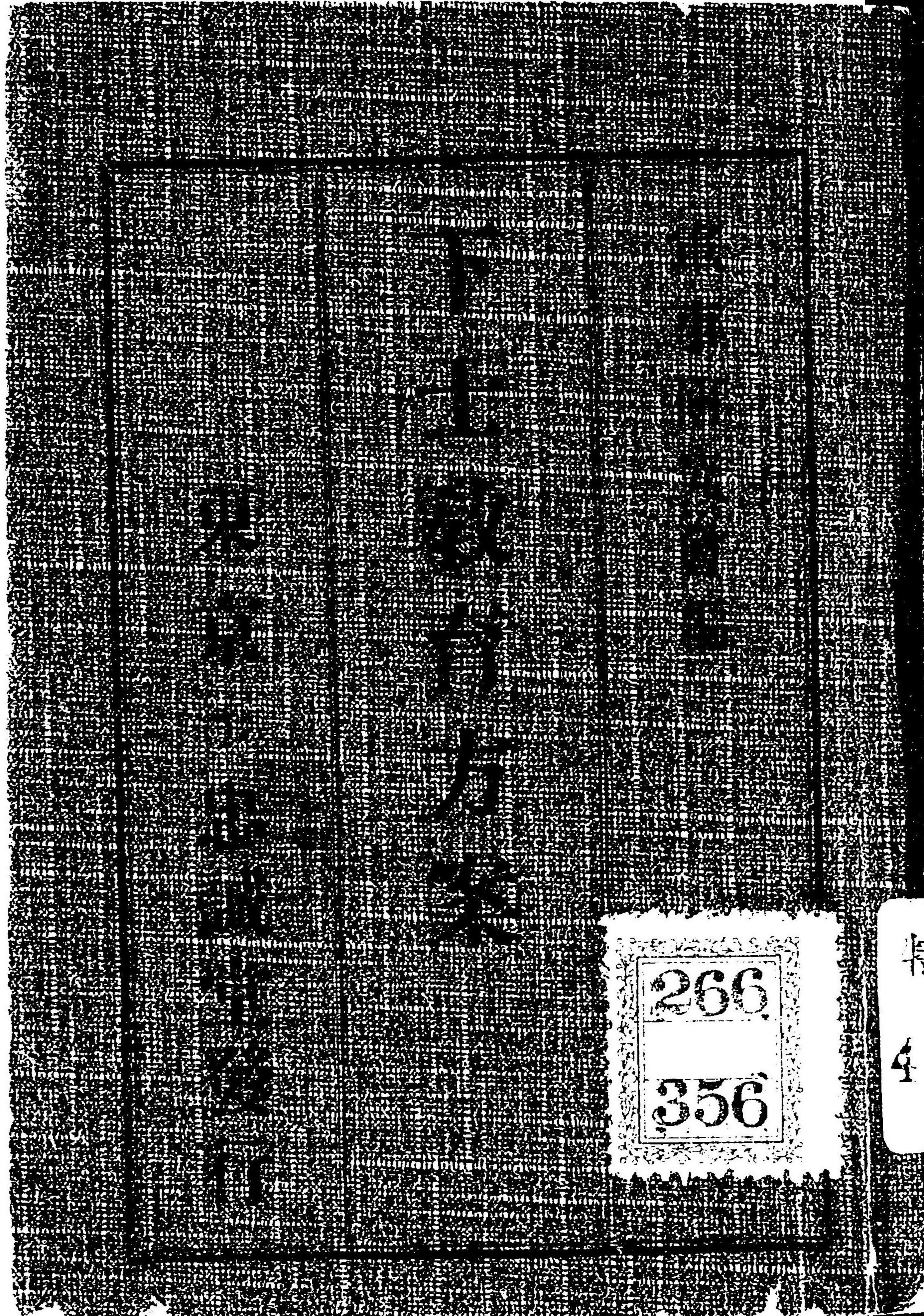
下士教育方案

軍事研究会／編

M44

BFB-0065





266
356

新編
新編
新編